

柴田町住民自治によるまちづくり基本条例審議会（令和2年度第3回） 要旨

日時：令和3年3月24日（水）

午後2時00分～午後4時00分

場所：槻木生涯学習センター1階 会議室1

<出席者>

佐々木鉄男委員、中嶋紀世生委員、志子田清蔵委員、阿部有子委員、関六郎委員、佐藤正壽委員、村山菜穂子委員、大庭三余子委員（児玉芳江委員欠席）

<事務局>

藤原まちづくり政策課長、畑山課長補佐、駒板主事、佐々木主事

<傍聴人>

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、傍聴席はなし

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 会議録署名員の指名

大庭委員・佐々木委員（輪番制）

4. 議 事

住民自治によるまちづくり基本条例に基づくまちづくりの実施状況について（資料1-1）

中嶋会長：それでは、議題に沿って進めさせていただきます。まず皆様に前回からの宿題ということで事前に意見聴取シートに記入していただきました。それが資料1-1と1-2となっているのですが、前回欠席された委員もおりますので、経緯等を含めてまずは資料の1-1の説明を事務局からお願いします。

（事務局より資料1-1について説明）

中嶋会長：ありがとうございました。こちらの資料につきましては、事前に送付されているもので、皆様から補足や疑問点等なければ次に進みたいと思いますがいかがでしょうか。特にございませんか。では、これからこちらを基に議論していくのですが、任期も半分が過ぎているため、一度提言までのスケジュールを確認したいと思っています。事務局側でスケジュール案みたいなのがあればお願いします。

佐々木主事：今回合わせて残り約6回を予定しており、配分としては今回の1回、令和3年度に3回、令和4年度に2回となっております。しかし、令和4年度の2回については、提言の1回と提言に向け

た最終調整の1回となっていることから、議論できる回数というのは今回含めて実質4回となっております。

中嶋会長：ありがとうございました。実質来年度の3回で内容を決めなければなりませんので、今回はどのテーマにするかを決めて、次回以降に内容を詰めていけたらと思っています。それでは、次に資料1-2の内容に入りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

(事務局より資料1-2について説明)

中嶋会長：ありがとうございました。こちらは前回決めた3つの項目に先ほどの資料1-1と前回までの審議で出た意見をまとめたものとなっています。回数も限られていることから、こちらの3つの項目の中から1つを選んで決めていくことになるのかなと思っています。前回中間支援の話がありましたけれども、そちらに絞ったほうがいいのか、それとも決める前にもう少し課題出したほうがいいのか、何か意見あればお願いします。

佐々木主事：資料1-2の中間支援の要望というのは、情報共有や地域コミュニティの要望が結果としてそのままスライドしたものとなっています。ですので、中間支援の話題として議論するのではなく、まずは情報共有や地域コミュニティの要望から入りまして、最終的に中間支援の話とするのはいかがでしょうか。

中嶋会長：では、行政にしていきたいことをさらに意見いただいて、そこから分類ごとに分けていくような流れはどうでしょうか。

阿部委員：中間支援と行政支援は別物だと思っています。行政支援は行政相談とかいろんな窓口があると思うのですが、中間支援は行政という立場で悩みを聞くところではないだろうと勝手に認識していて、住民目線で一緒に考えてその中で必要なものを行政に持っていくものだと思っています。なので、そこを混ぜて考えてしまうと中間支援の在り方みたいなものが薄れていくような気がするのですが。

藤原課長：地域コミュニティを例にしますと、地域を元気に生き生きとした地域にしたいと思ったときに、例えば、隣の行政区と一緒にイベントを行いたいと思ってもなかなか話し合いの場が作れないとかいろいろな課題や悩みがあると思います。そういった中で前に進むためにこういう仕組みが欲しいとなったときに、行政や中間支援など色分けするのではなく結果的に地域の方々の力になればいいというイメージがあります。地域にとって必要なものを考えていって、その中で中間支援としてやらないと上手くいかないものについては中間支援の在り方をイメージしていけばいいのかなと。

阿部委員：そのイメージなんですけれども、中間支援は相談して一緒に考えていくもの、行政はそれを解決するものだと思っています、社協もそういう機能があると思うのですがどういう考えなのでしょう。

大庭委員：福祉系の中間支援は自分のこととして課題解決していく、一緒に向き合っただけでプランしたり、ご相談いただいた時に今出来ること出来ないことを企画していくことが福祉系の中間支援かなと。なの

で、そういった部分の発想があればまちづくりも広げていけるのかなと思っています。

藤原課長：地域の課題やこういうのが足りないとかを解決すれば地域が元気になるのではないのかという話の中で、それは誰がやるのかどの組織でやるのかというのはあまり考えずに議論してもらって、それを上手くやるには中間支援と呼ばれる機能を持ったところがやったほうがいい、などという話は後でもいいのではないかなと思います。

中嶋会長：皆さんの中にある中間支援の認識がそれぞれバラバラにあると感じましたので、それについて議論していくのはなかなか難しいのかなと思います。ですので、機能に対してアイデアを出していくのがいいのか、それとも皆さんの地区の課題とかをもう少し聞いて、それに基づいて新しい機能を投げかけていくのがいいのかという感じでしょうか。

佐々木：中間支援の機能を新たに作り出すという考え方ではなく、地域の皆さんの持つ課題や要望をさらに出されたものが結果として中間支援の機能の追加になるほうがいいのかかと。

阿部委員：地区の課題と言われても大きな括りで挙げるのが難しいし、今まで出たもの以外となると細かいものとなるのですが。

中嶋会長：そうですね。これ以上細かいものになってしまうと課題の線引きが少し曖昧になってしまうと思います。提言する際に、事務局のほうでどのレベルまでまとめた提言にするのかを想定しているのでしょうか。

佐々木主事：実質議論できるのが来年度の3回のみですので、例えば提言する内容が中間支援の役割に新たな機能を追加することにしたとしても、追加する内容まで決めるのは難しいと思っています。最終的な機能の追加に対する議論は別の機会に設けて、その一つ手前の地域コミュニティの現状の課題や要望などをまとめたものが提言となるのかなと思っています。

村山委員：今まで皆さんの意見を聞いて、少しずつイメージが出来てきたのですが、今までバラバラだったもの、各行政区が点と点だとするとそれぞれの点でいろいろな課題がありますよね。でも、共通の課題もあるわけで、それをゆる.ぷらとかで集まって違う行政区の方達が情報共有していけば、点が線になって、さらにそれが広がっていくとイベントも出来たり、人も集まり、コミュニティが広がっていくのかなと思いました。

藤原課長：結果としてゆる.ぷらの機能の充実がコミュニティの広がりを作るために必要ということもあると思いますが、その前段階のものを整理できれば、例えば、広がりを作るという課題に対してゆる.ぷらの支援以外にも行政区同士のイベントに助成金を出してはどうかとかそういった支援や仕組みづくりが生まれるかもしれません。ですので、まずはその辺を整理してもらいたいかなと思います。

阿部委員：広がりを作っていくためには、やっぱり情報だと思うんですね。どこで何をしようとしているとか。ゆる.ぷらに各行政区のメインの事業を掲示したり、イベントの写真だったりを飾ってくれる

と地域がもっと身近になって、そういう情報をみんなが見れたり知れることが点から線に変える第一歩じゃないのかなと思います。

中嶋会長：皆さんの意見を聞いて、ゆる.ぷらや社協や仙台大学があるので、役場と行政区だけじゃなくもっと広く繋がっていければ、情報共有だったりまちづくりがもっと上手くいくと思いました。なのでその辺をテーマとして話し合えばいいのかなと思いました。行政区の悩みや課題という細かいものではなく、もう少し上の、例えば地域や様々な機関の連携みたいな町全体としての課題を取り上げてもいいのかなと思いました。

佐藤委員：提案なのですが、我々は今から条文を変えたりする時間や専門性はありませんし、限られた時間の中で地域の課題を無差別に挙げて意味が無いと思いますので、最終的なゴールを中間支援としたとしても、さらに細かいものに絞って議論していきたいのですがどうでしょうか。

阿部委員：地域コミュニティの話に絞って議論していると思うのですが。

佐藤委員：そこからさらに細かいテーマを決めたいと思って。

佐々木主事：事務局でも地域コミュニティについては、地区の課題と地域の連携の2つに分けていますので、その2つから選んでいくのもいいと思いますがいかがでしょうか。

中嶋会長：事務局の提案のとおり内容をこの2つに絞って進めていきたいのですが、どうでしょうか。

阿部委員：私は地域の連携について考えていきたいと思っています。ただ、地域を自治会と限定するのではなく、いろいろな連携も考えていきたいと思っています。今は行政区と行政区の連携しか考えられないけれど、他の人は行政区以外にも企業と連携して活動してみたいと思っているかもしれないので。

佐藤委員：私は仙台大学の存在ってかなり大きいと思っているんですよね。町の行事に参加すると単位が与えられたりしたりしていて、大学のほうから地区との連携を重要視しているのだと感じられています。ですので、その部分をさらに強化していく取り組みを考えたいと思っています。

佐々木委員：大学が町と連携しているものをさらに進めていくというのもあると思うのですが、私は地域の在り方として思ったのが、焼肉の都が無くなったところにテナントを募集しておりまして、そこにゆる.ぷらカフェみたいなを作ると大学生との交流がもっと簡単にできるのかなと思いました。立地的にも大学生が通いやすいところがあるので、カフェの中にアルバイトの募集やボランティアの募集を掲示したら学生の利用者は増えるだろうし、その中に地区のイベントの募集を混ぜると、学生の目に留まって地域との関わりが増えると思うんです。

佐藤委員：それもいいと思うのですが、私は今行っている健康教室などの教育的な部分の強化を図りたいとも思っています。

佐々木委員：もちろんその部分も強化していければなと思っています。正直、教員が授業の一環として生徒を募集して地区と関わっているため、生徒個人が地区と関わることってほとんどないんですよ。今行っているものを強化していくのはもちろんなのですが、生徒個人が関わりやすい環境作りとしてそういった学生が大勢利用する場があればいいなと思っています。

藤原課長：提案なのですが、進め方として何を基軸にするかを決めませんか。例えば、自治会から見た地域コミュニティを基軸に考えて、自治会の課題等から企業や大学、他の自治会との連携に対する支援や仕組み作りを考えていくというのはいかがでしょうか。

佐藤委員：あまり良く分からなかったのですが、どういうことでしょうか。

藤原課長：先ほどのお話しの中で、自治会や仙台大学から見た課題や在り方が出てきたと思います。しかし、それだとあまりにも議論するのに広すぎてしまうので、地域コミュニティを地域の連携と地区の課題に分けたように、地域の連携の中でもさらに分けて、自治会から見た連携をピンポイントに考えてはどうかということです。

阿部委員：それでいいと思います。

中嶋会長：少しまとめますと、最終的に中間支援に関することを提言として挙げていくのかなと思うのですが、その中のテーマとして地域コミュニティが前提にあって、そこから地域の連携に絞って考えていくということになるということでしょうか。

村山委員：地域の目線から問題を解決できる仕組みがあれば、そこから企業や大学との連携も上手くいくと思うので、地域を主軸として考えていいと思います。また、ゆる. ぷらの役割を見ている中で少し認識不足だったのが、個人的に何かをやる人たちの相談場所かなと思っていたのですが、お話を聞いていると町内会としての相談をしてもいいんだなと。もしそういう相談を受けてくれるのであれば、私たちの自治会では、防災に力を入れていきたいと思っています、他の地区も同じような課題を抱えていると思うんですね。地区同士の連携ってすごく地味だなと感じるのですが、なかなか上手くいかないの、そこを支援してもらえると嬉しいです。

中嶋会長：なんとなく収束してきたような感じがあるのですが、地域コミュニティの話の中でも地域の連携について議論を深めていくようなところでしょうか。また、地域コミュニティの目線と言っても、社協や仙台大学の目線からの意見もあると思うので、あくまでも地域の目線が前提ということから、いろいろなアドバイスや意見があればいいのかなと思います。

佐藤委員：地域間のコミュニティというのはどういうイメージなのでしょうか。

阿部委員：地域間というと地域と地域の話ですので、例えば、防災という観点から近くの自治会と一緒にハザードマップを作ったりするイメージです。

村山委員：一緒に何かを作り上げなくても情報を交換することだけでも意味があると思うんですね。例えば、29C区と29D区って地続きに繋がっているじゃないですか。そこでお互いの防災に関する情報を交換しようとしたときに、区長同士のやり取りで終わったり、近くの行政区としか話ることがないので、他の行政区の似た悩みや取り組んでいることを知ることがないんです。ですので、そういう情報を共有できれば、最終的にゆる.ぷらとかが間に入っていただいて、解決に向けて話し合う場を作ることも可能になるのかなと思います。

中嶋会長：逆に、佐々木委員のような大学からの目線として地域コミュニティについて何か意見はありますか。

佐々木委員：事例を聞いていると具体的なイメージを掴むことができましたので、次回以降は事例を紹介しながら進めていければ分かりやすいのかなと思いました。

中嶋会長：では、時間も2時間弱経過しておりますし、方向性もある程度決められたと思いますので、今回はこの辺で閉会したいと思います。事務局から何かありますか。

佐々木主事：次回以降のことについて、コロナ禍ということもあり、今後も開催時間をできるだけ短縮したいと考えております。ですので、皆様に今回と同じような意見聴取シートを事前に提出していただきたいのですがいかがでしょうか。

中嶋会長：問題ないと思いますが、皆様どうでしょうか。特に意見が無ければ今回と同じく宿題ということにしたいと思います。

佐藤委員：宿題の内容としてはどういった内容になりますか。

佐々木主事：地域の連携における課題ややってみたいことなどを挙げていただこうと考えておりました。

阿部委員：地域の課題はある程度出したので難しいかもしれません。

佐々木主事：皆様の意見はもちろんのこと、例えば区長さんや防災等の担当の方に聞いていただくのもいいのかなと思いました。

中嶋会長：事務局のほうでも中間支援の事例等の参考資料を準備していただけると助かります。

佐々木主事：分かりました。では、今回と同じように宿題ということで皆様に配布させていただきます。資料については後日会長の方と進め方と合わせて相談しながら決めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

中嶋会長：では、次回開催の時期を決めたいのですが、何月ごろになりそうでしょうか。

佐々木主事：今年度は新型コロナウイルスの影響から当初より大幅に遅れてしまったのですが、来年度以降は通常に戻したいと考えているため、6月か7月ごろを目標に調整できたらと考えています。

中嶋会長：そうなると大体5月ごろに宿題が届くということになりますので、皆様のほうでもできるだけ区長さんやいろいろな担当の方に意見を聞いておいてください。

6. 閉会

志子田委員：私もいろんな行政区から他の地区と連携した活動をしたいと相談受けていて、他の自治体を見ますと、地域おこし協力隊が間に入って成功した例があったりします。そういうことも調べて欲しいのと、今までは自分の自治会でやっていることが、実は他の自治会にとっては解決策に繋がる部分もあると思うのでその辺のことも皆さんと共有できたらと思います。今日はありがとうございました。

令和3年3月24日

会議録署名委員

会議録署名委員